

校内読書週間を振り返って…

10月17日～28日の校内読書週間、貸出冊数は全学年合わせて**102冊**でした。特に1年生は読書ビンゴに挑戦したり、雑誌の配布を希望したりと図書館を利用してくれた生徒が多かったようです。また、2・3年生は貸出数は少なかったものの、進路に関する書籍や自分が好きな本をじっくり読んでいたようです。

校内読書週間中、朝読書の時間を使って「逆ソクラテス」を読んでもらいましたが、いかがでしたか？10月25日のLHRではこの作品についてグループやクラスで意見交換をしてもらいました。事後のアンケートでは「一斉読書の活動について」約75%の人が「よかった」「まあまあよかった」と回答し、様々な感想・意見を書いてくれました。少しですが、紹介したいと思います。

◎この物語にどんな感想を持ちましたか。またはどんなところが印象に残りましたか？

- ・自分の意見を言うことで、他人の価値観を変えられるかもしれないと思った。
- ・先入観で決めつけてはいけない。
- ・途中で「逆ソクラテス」の意味がわかって面白かった。
- ・自分も「僕はそうは思わない。」と言ってみたい。
- ・草壁が最後にはプロ野球選手になっていたことに感動した！
- ・最初と最後でつながっていて、伏線回収に鳥肌。
- ・安斎が「草壁のための作戦ではない」と言ったところ。久留米と出会うこれからの子どもたちを救う目的に加えて、自分も親のせいで先入観を持たれることが多かったのので、先入観を持つ人に対しての復讐の意味も込められているように感じた。



◎今回の集団読書活動について感じたことを自由に書いてください。

- ・自分じゃ選ばない話だったけどおもしろかった。
- ・とても面白い内容だったので、あっという間に読めた。これを機会にこの作者の物語をもっと読んでみたい。
- ・もう少し短い方がよい。
- ・読書が苦手だからつらかった。
- ・他の人の意見が聞けて、自分では気づかなかったところにも気づけた。
- ・朝読書の時間、自分の読みたい本を後回しにして読まないといけないのがちょっと。
- ・あんまり本を読むことがなかったけど、今回本の面白さを少し知った。
- ・「全学年同じ物を読む」という考えがおもしろいなと思いました。



新着図書案内



★腹を割ったら血が出るだけさ (住野よる)	
★小説 すずめの戸締まり (新海誠)	やまゆり園事件 (神奈川新聞取材班)
★夏休みの空欄探し (似鳥鶏)	「みんな違ってみんないい」のか? (山口裕之)
キリンの首 (ユーディット・シャランスキー)	映画を早送りで観る人たち (稲田豊史)
その本は (又吉直樹・ヨシタケシンスケ)	ブルーカーボンとは何か (枝廣淳子)
祈りのカルテ 再会のセラピー (知念実希人)	最新発酵の基本と仕組み (齋藤勝裕)
嘘つきジェンガ (辻村深月)	サイレント・アース (デイヴ・グールソン)
嫌いなら呼ぶなよ (綿矢りさ)	「修養」の日本近代 (大澤絢子)
あくてえ (山下紘加)	自分のミライの見つけ方 (児美川孝一郎)
とんこつQ&A (今村夏子)	ルポ誰が国語力を殺すのか (石井光太)
ゆきがふる (蜂飼耳・牧野千穂)	防災事典 (タイチョー)
パンとサーカス (島田雅彦)	たろんの韓国語レッスン (たろん)
へいわとせんそう(たにかわしゅんたろう)	SDGs時代の食べ方 (井出留美)
ミシンと金魚 (永井みみ)	マイテーマの探し方 (片岡則夫)
ハヤブサ消防団 (池井戸潤)	生命倫理のレッスン (小林亜津子)
信じようと信じまいと (R・L・リプレース)	看護につなげる大切なスキル (原田高志)
一橋桐子(76)の犯罪日記 (原田ひ香)	和想百景 (藤波秀明)
そして誰もゆとらなくなった (朝井リョウ)	子どもの目が危ない (大石寛人)
それでも、世界はよくなっている(ラシュミ・サーデシュパンデ)	ジェンダーで読み解く男性の働き方・暮らし方 (多賀太)
別冊太陽スペシャル エリック・カール(別冊太陽編集部)	最新プラスチックの仕組みとはたらき(桑嶋幹・木原伸浩・工藤保広)
化物園 (恒川光太郎)	★はリクエスト本です。

読んでみたよ、この1冊。



「N/A」年森瑛(文藝春秋)

主人公の松井まどかは高校2年生。「かけがえのない他人」を夢見て、女子大生のうみちゃんと付き合って3か月。体重計の目盛りはしばらく、40kgを超えていない。

タイトルの「N/A」は英語の略語で「not applicable (該当なし)」、「not available (使用不可)」の2つの意味を持つ言葉です。まどかは言います「本当はどんな属性もふさわしくない」と。一既存の枠に当てはめて、「他人のお墨付きの言葉を借りて」、マニュアル通りに気遣うことで思考停止に陥ってはいないだろうかと考えさせられた1冊です。

年森瑛
1997年11月1日生まれ。高校2年生。かみちゃんとは付き合ってから3か月、体重計の目盛りはしばらく、40kgを超えていない。
文芸春秋 文学界新人賞受賞

